
闇の音楽

犬狼院犬丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇の音楽

【Nコード】

N5358M

【作者名】

犬狼院犬丸

【あらすじ】

道に迷った男におきた話。

クトゥルフ神話を元に作成してみました。

「道に迷ったのか？」

先程まで晴れていた空も雲につつまれてしまっている。
一緒に山登りをしていた仲間の姿もない。

「おい。誰かいないか。」

叫んだ声も闇に消えて行くだけだった。

遠くで雷の音が聞こえている。
ぼつりぼつりと服を濡らしているのに気づいた。

「まずいな。こんな時に。」

雨が降り始めた為、私は雨宿りできる場所を探した。

ずぶ濡れになりながら探してみると洞窟を見つけた。

「ここで雨宿りをするか。」

洞窟の中は暗い為、入り口付近に座り、濡れた服を脱いだ。
冬でなくて良かったと思いつながら外を眺めていた。

ドン・・ドン

「ん。」

洞窟の奥から音が聞こえる。

ドン・・ドン・・。

ピー・・ピー・・。

太鼓と笛の音。

なんで。誰かいるのか。

「誰かいるのか。」

私の声は洞窟の奥に消えていく。

ドン・・ドン・・。

ピー・・ピー・・。

狂ったように同じ音を奏でている。

「誰か。誰かいるのか。返事してくれ。」

暗闇から響く狂った音に対し私は恐怖を感じていた。

しかし、恐怖を感じてはいるが、それと同時に興味が湧いてきた。

まだ雨は降っている。止む気配もなさそうだ。

ドン・・ドン・・。

ピー・・ピー・・。

ドン・・ドン・・。

ピー・・ピー・・。

私は洞窟の奥に向かって歩き出した。

進むにつれて恐怖を感じるのだが、闇に引かれるように奥へ奥へ進んでいった。

不思議と躓いたり壁にぶつかったりはしなかった。

ドン・・ドン・・。

ピー・・ピー・・。

ドン・・ドン・・。

ピー・・ピー・・。

ドン・・ドン・・。

ピー・・・ピー・・・。

気づいた時には音は私を囲むように聞こえたり、遠くに聞こえたりする。

しかし私は歩き続ける。

何時間あるいているのかワカラナイ。疲れたという感覚もナイ。ただ音が聞こえるだけ。音が私を呼んでいる。

ドン・・・ドン・・・。

ピー・・・ピー・・・。

ドン・・・ドン・・・。

ピー・・・ピー・・・。

（後書き）

あらすじにも書いたようにクトゥルフ神話の神格の一つ
アザトースを題材にしてみました。

読んでいただきありがとうございます。

今後もクトゥルフ神話を題材に作成してみようかと思っています。
オリジナルもそのうち。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5358m/>

闇の音楽

2010年10月12日02時06分発行